小中学校の適正規模・適正配置調査特別委員会会議録

1. 日 時 平成25年3月13日(水曜日)
午後1時30分～午後3時25分
2. 場 所 委 員 会 室
3. 出席委員 萬代泰生 委員長 下井克己 副委員長
竹岡昌治 委 員 徳並伍朗 委 員
荒山光広 委 員 岩本明央 委 員
岡山 隆 委 員 俵 薫 委 員
秋山哲朗 議 長 村上健二 副議長
4. 欠席委員 な し
5. 出席した事務局職員
石田敦司 議会事務局長 岩崎敏行 議会事務局補佐
岡崎基代 議会事務局主査
6. 説明のため出席した者の職氏名
永富康文 教 育 長 山田悦子 教委事務局長
末益正美 教委事務局教育総務課長 月成庄造 教委事務局学校教育課長

午後 1 時 3 0 分開会

委員長（萬代泰生君） それでは時間になりましたので、小中学校の適正規模・適正配置調査特別委員会の 3 回目の会議を開催させていただきます。

教育長さん何かありますか。

教育長（永富康文君） 本年美祢市立小中学校適正配置検討委員会を設けまして、市内の小中学校の適正規模・適正配置につきまして諮問をしたところです。検討委員会では、昨年 7 月以来、4 回に渡り協議をしていただきまして、その結果をこの度会長から答申としていただいております。お手元にお配りしているとおりであります。

市議会におかれましても、本年度美祢市小中学校適正規模・適正配置調査特別委員会を設置されまして、皆様には熱心にご協議をいただいているところであります。

教育委員会といたしましては、この特別委員会のご意見をしっかり承りながら、美祢市の小中学校のあり方につきまして、今後検討してまいりたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしく願いいたします。

委員長（萬代泰生君） それでは、もう早速協議事項の方に入らせていただきます。

一番目に、美祢市立小中学校適正配置検討委員会の答申についてということで、事務局の方から説明がございましたら、お願いをいたします。はい、末益教育総務課長。着席して。

教育総務課長（末益正美君） それでは、答申の概要についてご説明をいたします。

まず、検討委員会へ諮問するにあたりまして、美祢市の小中学校において、児童、生徒の学力や社会性、またコミュニケーション能力など、様々な力を伸ばすためには、どのくらいの学校規模が適切かといった、いわゆる適正規模の問題と、それを踏まえまして、どのように学校を配置することが適切かといった、いわゆる適正配置について、様々な観点から審議を行っていただくこととしたところでございます。

学校の適正規模、適正配置につきましては、お手元にお配りしております答申の 2 ページから 3 ページにかけてあります。

これは美祢市の小中学校は、ほとんどの学校で小規模校であるために、法令等の基準であります 12 学級から 18 学級が適正規模とされていることや、またアンケ

ート調査の結果において一番多かった、1学年複数学級、2学級から3学級がいいという意見によって学校再編統合するとすれば、地域から学校がなくなってしまうことも想定されるということから、このようになると地域の衰退にも拍車をかけることにもなりかねないという問題もありまして、現実的には複数学級にすることは困難ではないかということから、美祢市の実情に即して検討することが望ましいというふうにされたところでございます。

次に学校の適正配置につきましては、答申の4ページから5ページに書かれてございますが、美祢市の学校は歴史のある学校も多く、学校がこれまで地域の中で果たしてきた役割や、学校がおかれている地理的条件、また地理的なまとまり、地域のバランス等に十分配慮することが望ましいというふうにされております。

また、適正配置を検討する上では、通学距離や通学時間、また通学支援などについても、考慮する必要があるというふうにされております。

このことを踏まえまして、5ページにありますように、検討委員会と致しましては、適正規模、適正配置の基本的な考え方が示されたところでございます。結論といたしましては、この枠で困るであるところになりますが、小学校におきましては、小規模校の良さを生かしつつ複式学級の解消を原則として、適正規模、適正配置を検討することとされております。

次に中学校におきましては、ひとつの学年に複数の学級があることが望ましいという方向を示しつつ、生徒にとって望ましい通学距離、通学時間と安全確保、地域のまとまり、学校の歴史等を考慮して、適正規模、適正配置を検討することとされております。

但し、次のことに留意することということで、小中学校ともに実際に再編統合を行う場合には、保護者、地域住民の要望や意向を十分尊重して行うことを前提とするという、以上の結論に至っております。

次に6ページの学校の適正配置の方策といたしましては、学校を再編統合をする場合と、また通学区域を変更する場合、あるいはその両方を併用することが考えられるわけですが、実際には小規模校の多い美祢市では、複式学級を有する小規模校を統合することで複式学級を解消し、一定規模の児童、生徒を確保するという方法を取ることになると考えられます。

次に7ページから8ページにかけては、小規模校が維持されるところの場合等におきまして、小規模校のもたらす課題解決策についてまとめてあります。

方法としましては、少小学校の連携や、また小中学校の連携、コミュニティスク

ールの推進、8ページの(4)になりますが、地域教育ネットの推進などによりまして、小規模校の課題解決に努めることも重要であるというふうにされております。

次に8ページの(6)の留意事項といたしまして、保護者や地域への周知であります。学校は地域住民にとっても様々な地域行事や地域活動等を行うときの拠点施設ということもありまして、更に災害時の避難場所でもあることから、再編統合にあっては、保護者や地域住民の意向を十分尊重しながら、十分協議し、理解が得られるよう努めることということ、また、通学手段の確保、通学時の安全確保、部活動等についても考慮することとされております。

それと、閉校後の校舎跡地利用については、その地域のニーズを最優先としながらも、市全体で有効活用する方策を検討されるよう希望するというふうにされておるところでございます。

最後に今後のスケジュールと致しましては、この答申に基づきまして、平成25年に教育委員会におきまして、美祢市立小中学校適正規模、適正配置の基本方針を策定する等、再編統合の具体策を検討することを要請するというふうにされておるところでございます。

以上簡単ではございますが、答申の概要につきまして、説明を終わらせていただきます。

委員長(萬代泰生君) 只今説明がございましたが、これについて何かご意見等ございませんか。あの基本的には、12月の段階で中間報告をいただきましたよね。その内容で、その中身については変わってないということで認識してよろしいですね。ご意見等ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長(萬代泰生君) ご意見ないようでございますので、それではこれまでに教育委員会のほうでいろいろとご検討いただいて、きょうが3回目ということで、お答申内容についての説明を受けたところでありましてけれども、去年の12月段階から答申が今後変わる可能性があるのかという、ちょっと事務局のほうに説明を伺いましたら、ほとんど答申変わることはないでしょうというような回答でございましたので、これまで様々な資料、ご提供いただきました。大変ありがとうございました。おおよそ資料によりまして、この内容等、今の現状、それから今後の考え方等も今お伺いしましたので、把握できたものと思っております。

当委員会としては、年度末のこの時期を迎えまして、一定の方向性を結論付けて

いかなければならないと思っておりました。私のほうで学校訪問なんかも行いながら、当委員会の調査報告書、並びにまとめ案を独断と偏見に基づきまして、勝手ではございますが私のほうで作成をいたしましたので、その内容について皆様方にご提案をさせていただき、ご検討くださいますようお願いしたいというふうに思っております。

それでは別冊で、小中学校の適正規模、適正配置調査特別委員会の調査報告書というものを作っておりますので、そちらを出していただきたいと思いますが、その中の8ページをまずお聞きいただきたいと思います。先にまとめのほうから、ちょっと説明をさせていただきたいというふうに思います。

以上、14項目について調査を行うとともに、小中学校、小学校3校、中学校2校の学校訪問、授業参観も実施してまいりました。その結果学力向上の視点においては、小学校、中学校とも学力テストの成績が市内全体の上位にあること、授業も密度の濃い指導をしてもらっていること、中学校の部活も他校との連合で試合参加ができること等から、保護者の皆さんは大変満足しておられ、統廃合問題も一部の学校の除き、今のところ話題とされていなことがわかりました。

また、他市から来られた先生方も、美祢市の教諭配置に満足しておられるとともに、教育予算が他市よりも高い水準にあることも合わせて伺い知ることができたところです。

しかし、今後においては児童や生徒が減少することは、推計表によって明らかになっており、複式学級を支援するための非常勤講師を始め、教頭、養護教諭、事務職員等の配置基準も明らかでなく、また、中学校の部活など将来に向けた不安要素が数多く存在していることも認識しなければならない状況であります。

次に、各小中学校の学校運営において中心的役割を果たしているのは、PTA組織であり、行政や地域は深くPTAの活動を側面から支援している立場であることを認識する必要があります。

また、学校が廃校となれば、その地域に行き来する人の動きも減少するとともに、地域活力の衰退にも繋がってまいります。

従って、各小中学校の統廃合については、現状の教育体制（教育予算や教職員等）の確保が望めるのであれば、行政指導型の一定基準に基づいた統廃合を推し進めるのではなく、各PTA組織の今後の判断に委ね、統廃合を必要とする状況に至った学校について、その対策を行っていくことが肝要な方法と考えます。

また、将来この問題でPTAと地域の認識が必ずしも一致するとは限らず、教育

現場（学校内部）において混乱が生じることのないよう、教育行政の明確な指針を示すことも必要な時期にきていると考えたところでございます。

このまとめ案に至った内容について、始めからいろいろと調査した内容を、今から説明させていただきます。

まず、1ページでございますが、1として調査の重点課題を子どもたちの学力向上におく。で山口県の学級編成基準（平成23年度より）、小学校では1学年35人、2学年の場合16人、第1学年を含む場合8人、中学校では1学年35人、2学年の場合8人、上記2学年の場合及び第1学年を含む場合が複式学級となるわけであります。

として、複式学級における問題点として、特に小学校において、2学年が1クラス1教諭の授業となれば、授業時間が普通クラスに比べ6時間を通じて半分となりがちである。従って保護者や先生方も、学力向上の視点に立つと、大なり小なりの不安材料が生じてくるのも否めないものと考えられる。

2番目として、アンケートの調査結果、子どもたちの学力向上について、美祢市教育の満足度についての回答でありますけれども、この部分については今までのいただいた資料の中には入っておりませんでした。お手持ちの資料の22ページと23ページに資料として出しております。その中の子どもたちの学力向上、今の教育に満足しているのか、していないのかというアンケート調査でございますけれども、満足、やや満足は、小学校では53.8%、中学校では41.4%、不満、やや不満は、小学校では38.6%、中学校では51.9%の状況になっておりまして、この中におきまして、不満、やや不満と、小学校ですが、38.6に比べて、満足、やや満足が53.8%というふうに満足をされておられる方の方が多いのは、何故か、何なのかということが疑問が生じたところでありまして、この疑問を解消するために小学校或いは中学校に出向きまして、校長先生からいろいろとお話を伺ってまいりました。

まだ後でその内容については申し述べますけれども、2点目の重要度につきましては、小学校、中学校とも93.9、96.2と大変高いパーセンテージになっております。

3番目として、美祢市小中学校適正配置検討委員会のまとめ、先ほど事務局の方から話をいただいた適正規模について、学校の配置についてということは、先ほど説明がありましたので、省かせていただきます。

2番目に、2ページ目に、これは福島県田村市の市長さんからいろいろとご指導

いただくことができました。これは平成24年11月20日、教育民生建設観光委員会の行政視察の中で、あえて市長さんから私どもにご指導をいただいた内容を、ここにまとめております。

児童や生徒の減少傾向は、どこの市町村でも避けて通れない現状ではないかと思っている。しかし、この問題は能動的姿勢と受動的姿勢のどちらかで解決しなければ、将来を担う子どもたちの能力を伸ばすことはできないと思っている。

能動的姿勢とは、市が一定基準を設けて主体的に統廃合を推進する場合を言う。この場合は、総論賛成、各論反対の意見が入り混じり、行政としても大変な労力と時間、また多くの予算も必要となる可能性が強いと考えている。受動的姿勢とは、各小学校のPTA（地域意見を除く）からの要請を受けて対応する場合を言う。

私は市長に就任以来、一貫して受動的姿勢に基づき、小中学校の統廃合を実施してきました。その手法は、各小中学校のPTAで自分たちの子どもの将来についてしっかり議論していただき、PTAの総意として要望なり、陳情があった小中学校についてのみ行政も真摯に向き合い、対応を行ってきております。従って、統廃合に反対の学校や、PTAで取りまとめのできない学校については、統廃合の押し付けはしないことにしております。

このPTAの意見取りまとめの中には、地域の意見を含めないことが大変重要な視点であることを忘れてはいけません。例えば、PTAが統合の要請をしても地域が反対をするとところがあると思うが、この場合私は地域の方々に、あなた方は将来を担う子どもたちの教育に責任を持っていただけますかとの問いかけを行います。地域の方々には統廃合の廃校後の学校施設の有効な利用方法を検討していただきたいと申し上げてきております。

また、PTAの取りまとめについては、在籍中の児童の保護者のみでなく、今後の入学予定にある保育園や幼稚園、乳児を抱える保護者も一緒になって検討、協議をしていただくことが、大変重要な視点でもあります。というご指導をいただいたところでございます。

3ページは、先ほど教育委員会のほうから、複式学級解消を図る手段を講じようと思えばどういふ対応になるのかということ、これは私が自分で勝手にこしらえたものでありまして、別にこれを皆さん方にご紹介は差し控えたいと思います。参考にしていただけたらというふうに思っております。

4ページに移りまして、学校のこの中から疑問が生じたことをこの6番目に挙げているわけですが、学校の統合後も複式学級が生じる場合の対応策、美祢市単独市

費による教員の採用を図り、複式学級の支援措置を講じることが必要となる。

7番目として、山口県に対して、複式学級規定の緩和措置を強く要望するとともに、支援教師、教頭、養護教諭、事務職員等の配置基準の明確化を求めていくことが必要ではないかと考えたところではございます。

8番目に学校訪問から見えてきた課題について、これからご説明をいたします。1月の21日に学校訪問と授業参観、完全複式小学校3校に訪問させていただきました。ある学校では、今の現状は複式の解消手段として、非常勤講師1名が配属され、週5時間の対応をしてもらっている。対応教科は算数、国語、理科、社会で、水曜日は2時間、金曜日は3時間の計5時間である。なお不足する場合は、教頭も加わり、図書室や音楽教室など空き教室を利用して別々の授業を行っており、35人クラスよりも子どもひとりひとりの能力も把握しやすく、密度の濃い授業を行っていると思っており、保護者の皆さんにも大変喜ばれている。

しかし、授業の現状を知らない地域の方々や新たに入学を予定している保護者には、学校だよりでしかお知らせすることができないため、複式学級を不安に持っている方が多いのではないかと感じています。特に先生方も、非常勤講師や教頭、学校事務員などの配置基準が知らされていないために、いつなくなるのかわからず、絶えず不安はあります。完全複式であれば、1年から6年まで2学年をひとりの教諭が担当するために、物理的に授業時間が半分になることは否定できないことだと思っている。登下校に対する見守り隊のご協力も高齢化が進展している今日、いつまで続けてもらえるのかもわかりません。

現実に複式学級を敬遠され、転出される理由として、1に学校現場の様子がよくわからないことへの不安、2番目として6年間を通じて授業時間が半分になることへの不安、3番目として保護者の勤務地が他市にある場合、また親戚が他市にいる場合、さらに学校までの通学距離、通学途中において人通りのない場所が多くなる等転出される理由のひとつとなっていることを伺い知ることができました。

またある学校では、昔から複式学級が続いているので、保護者や地域の皆さんはこれが当たり前だと思っておられ、何ら統廃合問題が話題となったことはありませんとの答えもありました。

続いて1月24日、あるまた別の学校ですが、来年度以降の学校運営に限界を感じる状況にあることから、保護者は統合したいと考えているが、地域では反対する方がおられ悩んでいる。今夜、教育委員会からも来てもらい、PTAの話し合いをする予定です。また、小学校の休校、または廃校かの選択や、統廃合後の通学支援

問題も検討課題となっているとの話を伺い、学校の統廃合問題には子どもの人数のみでなく、保護者の人数や先生の配置人数など数多くの課題があることを感じたところであります。

1月22日、これは中学校ですが、現状の学校環境について、授業や部活について密度の濃い環境にあり、保護者の皆さんも大変満足しておられると思っております。人数が少ないため野球部の単独チーム編成はできないけれど、他校とのチーム編成が何年か前からできるようになったので喜んでおります。

また、地区の文化祭行事と学習発表会を合同で実施し、プログラムの進行役も受け持ち、学習発表会の場としては最高の機会を与えてもらっていると思っており、生徒の皆さんは大変張り切って取り組んでおります。

部活については来年度、男子は野球部と卓球、女子はバレーと卓球の団体競技と個人競技の選択可能な種目にしたいと考えている。

従って、学校の統廃合問題に関しては、これまで話題になったことはなく、これからも大幅な生徒の減少がない限り、話題になることはないと思います。

各クラスの授業風景は真ん中にストーブを置き、ストーブを取り囲む形で授業が行われており、先生はひとりひとりの雰囲気はすぐに認識できる様子を見ることができました。

また別の学校であります、現在の教職員の配置には、他市では見ることでないくらい手厚い配置が行われており、学校側も大変助かっており、保護者の皆さんも喜んでおられます。

部活については、男子は野球、女子はソフトテニスの2種類しかありませんが、満足なチーム編成ができない場合もあります。野球は時期にもよりますが、連合チームとして試合に参加しています。合同練習や試合に行く場合の移動手段は、主に先生の車を使用しますが、燃料代はPTA会費から援助してもらっています。この移動の手段について、保護者の同乗許可をいただいているという説明がありました。

小中学校の統廃合問題については、PTAの連合会長の立場で市の検討委員会に出席しておられますが、本校ではこれまで話題となったことはありません。との話でありました。

次に6ページになりますけれども、美祢市立小中学校の統廃合についてということで、これは図書館のほうに出向きまして、美祢市史をめくりまして、これまでの状況をここに一覧表にしております。

美祢市では昭和29年3月31日に美祢市になりまして、特に昭和31年の5月10日から昭和36年9月15日までの5年4ヶ月間財政再建団体となって、大変厳しい状況があったということの記事も載っておりました。

先立って竹岡委員さんのほうから、伊佐小学校と美東中学校の統合経緯について、調査する必要があるのではないかと話がありましたことを、形作るためにこの内容を調査してまいったところであります。

伊佐小学校は、昭和45年4月、伊佐、上野、河原、堀越の各小学校を統合し、伊佐小学校となったところであります。以後四つほどありますけれども省きまして、それから11番目に、小学校の校舎の建て替えがこの伊佐小学校の統合から始まっておりまして、それからずっと各年代ごと、伊佐小学校、厚保小学校、大嶺小学校、重安小学校というふうに、今度18日に閉校となります田代小学校は平成13年の2月に建て替えが行われて、一番新しい小学校であるんですけども、残念ながら閉校ということになっております。

それから12番目に中学校の建て替えも昭和37年から始まっておりまして、平成3年豊田前中学校の建て替えで、一応の完了をしておるところでありました。

13番目と致しまして、(発言するものあり)すみません、美祢地域だけ。はい、すみません。13番目にその他の資料としまして、小中学校教育振興策の検討経緯について、ちょっと簡単にまとめました。

美祢市立小中学校教育振興協議会がまとめたものが、平成18年12月教育委員会で作成されており、この中で統廃合問題が取り扱われてきております。

それから2番目としまして、この学校規模の適正化に関する提言書っていう、これ案としてありまして、正式に出されたものではありませんが、前美祢市議会の教育民生委員会からこういう取りまとめをしたので、これも参考にしてほしいという依頼を受けまして、まとめほど載せております。

それから3番目として、美祢市議会議会運営委員長からの申し送り事項として、学校適正規模を検討する場について、特別委員会の設置という要請を議長さんが受けておられるわけであります。

それからここまでの取りまとめをするにあたりまして、学校現場に関する資料として、小中学校要覧、小中学校PTA規約等について、各学校のそれぞれであります。1ページほど簡単にコピーして資料として載せてございます。

それから14番目と致しまして、伊佐中学校及び美東町学校の統合経緯ということで、資料が別に教育委員会からご協力いただいて、取りまとめをしていただきま

した。それぞれに伊佐小学校と美東中学校の統合についての経緯が掲載されておりますけれども、この部分については目を通していただけたらというふうに思います。この経緯の作成の順序と致しまして、学校統合問題を議論するにあたって、どんなだけの時間と年数がかかっているかということ、一覧表に作っていただきました。それから各統合するにあたっての、地域からどのような要望が出されてきたのか、そして現状はどうなっているのかというふうな形で、これをまとめていただいております。

そして更にその後の、学校が廃校になった後の措置が現在どのようになされているのかということが、別の資料の4ページのほうに出されております。4ページ中斷からは、美東中学校の背景、同じように議論の経過、要望事項等、簡単にまとめていただきましたので、参考としてお目通しをいただけたらというふうに思います。

そういったことでこのまとめ案を作成をいたしました。要するに小学校ですね、確かに複式学級ではあるけれども、その複式学級、教科によってはそれぞれ複式解消非常勤講師というのを配置していただいております。この主要な教科については別々に授業を行って、絶えず授業時間が半分ずつで、片方は自習、片方は教諭から授業を受けるということが全てではないということ、伺ってきたところであります。

9ページにある小学校の学校要覧の一部を載せておりますけれども、その校長、職員構成というところに、校長、教頭、教諭というふうにあります。下から3番目に講師というのがありまして、この講師が非常勤講師として算数、国語、理科、社会の時間には出向いて行って、授業を行っているということです。

10ページもやはり非常勤講師が配置されており、11ページも講師が配置されていることがこれを見ていただければお分かりいただけるというふうに思います。

それから、12ページ、13ページにつきましては、小中学校のPTA規約の一部を載せております。

14ページは通学費補助条例の一部を載せております。

それから15ページは小中学校の通学区域に関する規則、5番目にありますように、保護者の申し立てにより修学学校の変更ができることが規定されているものであります。

一番最後には、以前配付いただきました美祢市内の小学校の配置図、中学校の配置図を添付しておるところでございます。

ということで、8番目のまとめに至ったわけでございます。今ざっとご説明をいただきましたが、何かご意見等がありましたら、お受けをしたいというふうに思います。

この私どもの調査委員会のまとめとしては、教育委員会が進めようとしている一定基準に基づいて統廃合をしようとする考え方とは、全く逆の考え方をここにお示しをしているということでございます。

はい、岡山委員。

委員（岡山 隆君） 今この小中学校適正規模・適正配置特別委員会での調査報告でありましたけれども、今回現実に複式学級を敬遠されて、転出される理由として、五つほどありました。それで、学校現場での様子がよくわからないことへの不安と、2番目として6年間を通じて授業時間が半分になることへの不安、まあこういったところのものが出ております。実際これについては、非常勤講師が配属されて、週5時間、そういった複式学級に対しての対応をされていると思いますけれども、そういった説明を、それぞれPTA委員会とかそういった時に説明をされていると思いますけれども、それでも複式学級を敬遠されて、転出されるような傾向があるのでしょうか。その辺について、お聞きしたいと思います。

委員長（萬代泰生君） 月成学校教育課長。

教育委員会事務局学校教育課長（月成庄造君） 岡山委員のご質問にお答えします。（発言するものあり）

委員長（萬代泰生君） あのこれはですね、私が学校に出向いてお伺いした内容をここに例記しております。岡山委員が言われるように、こういう要素が無きにしもあらずということをお伺ったところでございます。だから、件数的にどうこうとかそういうのはちょっとわからないし、やはり複式学級ということに地域の皆さんもすごく不安を感じておられるみたいだし、外から美祿市に転入しようとする時に、やはり複式学級のある学校に行くよりも複式学級がないところに、親御さんは、保護者の方はそういうふうに考えられることが多いということをお伺ったところです。

（発言するものあり）

委員長（萬代泰生君） はい、竹岡委員。

委員（竹岡昌治君） 今、岡山さんがせっかく言われたんで、複式学級に現在なっているところの保護者の皆さんは、まあ逆に言えば、これが当たり前だというふうな認識を持っておられますよと、こう記述されているんですよ。そしたらですね、私は確かに複式学級をなくすという方向付けも、それが本来の方向付けかなと思う

んですが、現実として複式学級を消すことはできないだろうと思うんですね。

そしたら、複式学級のいいところ、逆に。もっと文書化しておかないとですね。悪いところばかり文書化してじゃね、その辺は何かなかったですか。委員長がちょっと聞いて歩かれたときにですね。

私、かって、これはもう十数年前の話なんですけど、わざわざ小規模校に入れて、先生方がやね、顔から、名前から、家まで皆わかるような学校に転校したいって言って、ひと家族お世話をしたことがあるんですいね。で、子どもさんがですね非常に伸び伸びとやっておられたのを見て、ああやっぱりこういう教育の仕方もあるのかなあと思ったんですが、逆にせつかく我々の議会が結論を出すとするならば、おそらく複式学級は避けて通れないだろうと思うんです、今後も。

そうしますと、複式学級のメリットがですね形となって残るような何か、私はあるだろうと思うんです。そうした十数年前の話ですけど、わざわざそう思われたお父さん、お母さんもおられるわけですから、あるんじゃないかなと。必ずしも大規模校がいいというんじゃないかと、そうした面も大事なんじゃないかなあという気がするんですが、いかがでしょうかね。

委員長（萬代泰生君） はい、今言われるようにですね、小規模校のメリット、デメリットっていうことがきちんとする必要があるのかもしませんが、あの平成18年12月にですね、美祿市立小学校、中学校教育振興協議会という報告書があるわけですが、今皆様方のお手元にはありません。これは教育委員会のほうにあるわけでございますけれども、その中におきまして、小規模校の活性化に関するということがありまして、その中の小規模校のメリット、デメリットっていうことを箇条書きにしております。

メリットについては、児童、生徒ひとりひとりに目が行き届きやすくなり、きめ細やかな学習、生活指導ができるほか、児童、生徒の発言、発表の機会もふえる。課外、校外活動等様々な場面で、異学年の、要するに学年が異なるということですが、交流が図られやすい。児童、生徒活動や学校行事などで、ひとりひとりの活動の場がふえる。教職員がほとんどの児童、生徒の実態を把握しやすくなり、情報を共有しながらきめ細かな指導ができる。ということを取りまとめております。

それから、デメリットにつきましては、児童、生徒間の学び合いや、競い合い、切磋琢磨の機会が少なく、向上心や学習活動意欲の醸成が難しくなる。課題解決型学習やグループ学習が展開しにくく、多様な意見の交流を通じて着想を広げる等の発展的な学習が成立しにくい。集団生活や友人との交流機会が少なくなるため、協

調性や連帯性、社会性を培っていくことが難しくなる。児童、生徒同士や教員との間で、人間関係や評価が固定化する傾向にあり、対人関係に起因する問題が生じた場合、その解消が困難になる。それから、児童、生徒活動や学校行事の運営が難しくなり、活気に欠けたり、ひとりひとりの負担が大きくなる。多様なクラブ活動が展開しにくくなり、個性の伸長や意欲の助長、集団活動を通じた社会性の育成を図っていく機会が得にくくなる。複式学級では対面による一斉授業が困難なため、効果的な学習指導の展開が難しくなる。

以上のメリットやデメリットについて、各学校の教育活動や児童、生徒の状況、地域との関係など、学校の実情を踏まえて、個々に判断すべきものである。というふうにまとめがしてあるところでございます。

これを載せる必要があるということでしょうか。

委員（竹岡昌治君） いやあの、必ずしもそれを載せてくれという意味ではないんですが、あの委員長がきちんとまとめられている中に、一応行政指導型じゃなくて、統廃合についてはPTAとかですね、そうした人たちの意識に基づいて行くべきだと、こういう結論だと思うんですね。

ならばですね、やはりどうしても、複式学級というのは避けて通れないだろうと思うんですね。ですから、我々が教育委員会さんをお願いしたいのは、特にそうして避けて通れない複式学級等について、最大限メリットを引っ張り出して、やはり生かした教育をやってほしいということを、私は申し添えたらどうだろうかという意味なんです。

委員長（萬代泰生君） ありがとうございます。もちろんそういったことが、これから教育委員会に求められていく大きな課題であろうというふうに思います。それから、そういったことで私どもとしても、教育委員会のほうにお願いをしたいと思えます。よろしく申し上げます。

委員（竹岡昌治君） それからもうひとつ、伊佐小学校とそれから美東中ですね、合併の経緯というのでお願いをしておきまして、きちんとしたものができて、ありがとうございました。

伊佐小の統合というのは、早く言えばモデルスクールにしようという大きなのですね、たまたま学校が建て替えなくちゃいけないという両方重なって、こう経緯を見てもみますと、上野、河原、堀越という、旧伊佐も含めてですが、上野、河原、堀越、それぞれですね、当時まあ私も若かったんですが、いろんなその合併するにあたっては、こうしてほしい、ああしてほしいという話があって、堀越の人が

一番早く全面協力しましょうと打って出た関係上、非常に残念なかったのは、根越の子どもさんたちがデマンドバスが通うまでに、2キロぐらい歩いて、バスに来るまでにですね。そうした条件闘争がきちんとされてなかったっていうんで、長い間子どもたちに大変な目に合わせたんですが、やはりこれを見てもですね、どっかの地区がやっぱし機関車役になって、合併しようやということにならないと、なかなか難しいんだなっていうのは、僕はわかったと思うんですね。

特に伊佐地区の場合はですね、学校を中心とした地域活動をしましょうやということで、コミュニティセンターを作りまして、あれ今名前は正確には何ですかいね。コミュニティセンターですか、上野、河原は完成しまして、堀越今一生懸命陳情中なんですね。校舎も残っているのは堀越だけなんです。あとはもうありません。地元の方が要望されまして、危険校舎できるだけ早くのけていただけんじょうかと。そしてコミュニティセンターを是非早く作っていただきたいと。

と申しますのは、先ほどもありましたように、学校という役割の中に教育だけじゃなくって、地域活動の拠点でもあるし、避難場所でもあるし、ところが堀越は避難するような施設じゃございません。10人以上行くと、今おそらく座敷が落ちるような状態なんですが、これはまあ付帯なんで、せっかくの機会じゃから教育長さんに是非早く対応をしていただきたいとお願いを申し上げます。

委員長（萬代泰生君） 只今竹岡委員さんのほうから、お願いなされましたが、よろしく申し上げます。

ほかに、何かございますか。はい、岡山委員

委員（岡山 隆君） 今回今まで協議した内容等、萬代委員長が取りまとめておられるわけでありましてけれども、また別途この中で、今回アンケート調査の主な結果ということで、ちょっとこの中で、中学校等ですね、この満足度という中で、市民の方のアンケートがあります。その中の7番目にですね、夢や志を育むキャリア教育の推進ということで、これがですね、満足、そしてやや満足という比率がですね15.1%ということで、かなり85%以上の方がそうでもないという感じで、調査結果があるわけですね。

だから、夢や志を育むということで、今回私も中学校の卒業式に出席しましたけれども、将来の夢についてということで、いろいろそれぞれ中学生が決意文を書いておりました。その中で、まだ将来の夢が決まっています、こういった形の決意文がたくさんあったんですね。それでまあ中学校だから、自分の時はどうかということ、自分もある面では、そんなに方向性というのが決まっていたわけじゃないと思

っております。そういった面において、難しいところもありますけれども、こういったところのものに関しましては、それが小規模っていいですか、複式学級、そういったところが決して影響しているわけじゃないと思います。けれども、そういったところのものが、今後低かったというところですね、それと学校の規模というのを、その辺の関連の影響っていいですかね、その辺について委員長。

委員長（萬代泰生君） それは私では難しい。（発言するものあり）よろしいですか。はい、月成学校教育課長。

教育委員会事務局学校教育課長（月成庄造君） 岡山委員の今のご質問ですが、なかなか難しい問題です。学校規模と直接絡んでいるかどうかというのは、私どもも把握はできません。

ただキャリア教育という言葉がですね、なかなか一般の方、保護者の方々には、非常に難しい言葉です。学校のほうからも説明はしておりますが、これから生きていく上で必要なもの、全て関わっていくものはキャリア教育として、捉え直しをしているんですが、具体的に言えば、中学校であれば職場体験とか職場見学、小学校でも体験活動を多く取り入れています。そういう活動とともにですね、日ごろの教科の活動も将来的に必ず役立つものだということで、キャリア教育という捉え方で学校で進めております。

まず、学校規模との関連は非常に難しいということ、それとアンケート調査の結果が非常に低いのは、そういうキャリア教育という言葉の説明が、まだまだ地域の方、保護者の方に十分に理解されておりませんので、この辺は学校のほうもですね、十分にこれからキャリア教育ということについて、しっかりとコマーシャルをしながら、あるいは学校の指導の中でも、子どもたちにしっかりと話をしながら、していかないといけないと思います。

夢や希望を持つということが将来の生きがいにも繋がるということで、私どものひとりでも多くの子どもに、中学生段階で具体的な職業だけではなくてですね、将来こんな生き方をしたいとか、こういうふうな大人になりたいということは、是非持ってもらいたい。具体的な職業がそこで明確になる子、ならない子はいりますが、その辺のところの指導は、まだまだこれから学校のほうにも十分にしていけないといけないかなと思っております。以上でございます。

委員長（萬代泰生君） よろしいですか。他にございませんか。ないようでしたら、一応私のほうで取りまとめをさせていただいた内容で、この調査特別委員会の考え方としてまとめさせていただいてよろしいでしょうか。（発言するもの

あり) すみませんが、しばらく休憩させていただきます。

午後 2 時 3 5 分休憩

.....

午後 3 時 2 1 分再開

委員長(萬代泰生君) 休憩前に続きまして、会議を開きます。先ほど皆様方にお諮りした内容について、今度議長のほうに答申をするような形になりますが、今お示しをしましたページの 2 枚目、審査の結果をもう一度確認をさせていただきます。

審査の結果。各小中学校の統廃合については、現状の教育体制(教育予算や教職員等)の確保が望めるのであれば、行政指導型の一定基準に基づいた統廃合を推し進めるのではなく、各 P T A 組織の今後の判断に委ね、統廃合を必要とする状況に至った学校について、その対策を行っていくことが肝要な方法と考えます。

また、将来この問題で P T A と地域の認識が必ずしも一致するとは限らず、教育現場(学校内部)において混乱が生じることのないよう、教育行政の明確な指針を示すことも必要な時期にきていると考えます。

以上、上記の判断をもって、小中学校の適正規模・適正配置調査特別委員会のまとめと致します。

という内容でございますが、これでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長(萬代泰生君) はい、ありがとうございます。それでは、後日議長のほうにこの内容で報告させていただきます。

この調査特別委員会の調査にあたりましては、教育委員会の教育長さん始め、各部長さん、課長さん方に、いろいろとご協力いただきました。大変ありがとうございました。それから更に、私が学校訪問いたしました小学校 3 校、中学校 2 校の校長先生にも、この場からお礼を申し上げまして、調査特別委員会を締めくくりさせていただきます。

それから委員の皆様方にも、いろいろとご協力いただきまして、大変ありがとうございました。

以上を持ちまして、当特別委員会を終了させていただきます。どうもご協力ありがとうございました。

午後 3 時 2 5 分閉会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

小中学校の適正規模・適正配置調査特別委員会

委員長 萬代春生